

## 道小大会運営研修会（反省会・引継会）の報告

10月4日、「大会運営研修会」を開催し、宗谷・稚内大会の反省と、次年度の函館大会への引継を行いました。その中で話題になったことで、主に全体に関わる部分についてまとめたので、お伝えする。



### 1 事務局幹事と大会実行委員会との連携について

○分科会運営役員の役割について、第1回分科会運営者研修会から明確にしていき、業務の見通しをもてるようにしていく。今後も下記の部分を明確にして準備・運営に当たっていくようにする。ただし、次年度は全国大会なので、全国大会用のマニュアルで実施していく。

司会者2名で話し合い役割分担をする。

① ・グループ構成を考える人                      ・グループのメンバーを決める人  
・グループの司会・記録を決める人、それをお願いする人

② ・座席表を作る人                      ・名札を作る人                      ・机の配置を考える人

会場責任者

○記録者や会場責任者は、大会前日の第3回分科会運営者研修会で初めて分科会打合せに参加することになるので、担当が決まった時点で、事務局幹事から「分科会の運営の手引」を送付し業務内容等について伝え、事前の準備について連絡・確認をしていく。

○事務局幹事とメンバーとの電子メール等による連絡のやり取りを大切にし、分科会運営役員の情報共有を密に図っていきたい。

### 2 各地区との連携について

○各地区の発表については、経験の少ない校長先生もいることから、地区全体での研究の取組と分科会運営者研修会での検討や運営者全体での関わりを基に、内容の充実を図っていきたい。

○HP閲覧の呼びかけを理事の先生、各地区の情報部の先生方にいただいたおかげで、ほとんどの参会者が資料等を持参してきた。今後も継続するとともに、グループの司会・記録者への依頼の際にも、同じ地区の参加者にHP閲覧を依頼していく。

### 3 分科会の充実について

- 「参画型」の分科会が定着してきており、アナライズカード、資料持参、グループ討議の観点の焦点化によって参会者の参画意識を高める工夫もみられる。今年度は、キーワードやキーセンテンスをフリップや短冊カードに記入して貼り出すなど、討議の見える化の工夫がなされていた。
- グループ討議に分科会運営役員（記録者、運営責任者、趣旨説明者等）が参加することによって、分科会参加者との一体感が生まれ、分科会の充実の一助となった。次年度も全分科会で行うことを基本としたい。

### 4 全体会等について

- 今回開会式後、分科会運営役員が準備で分科会場へ移動することなく、全連小会長の当面の諸課題を全員が聴くことができた。分科会運営役員の途中退席がないことが望ましいが、開催地区の事情を尊重しながら決めていく必要がある。

### 5 アンケートについて

- 事後のアンケートについては、「十分」「概ね十分」「やや不十分」「不十分」の4段階にして参会者の研修に対する満足度を聞くようにした。提出枚数は、去年の197枚から253枚と増えた。大会の目的に即した評価ということで、次年度も継続していきたい。

### 6 次年度以降の大会にむけて

- 来年度は全国大会なので、今年度の引き継ぎ内容は、主に平成31年度の胆振につなげていく。来年度の分科会運営マニュアルは全国大会用のものをつくるようにする。「分科会の充実こそ、最大のおもてなし」という道小のスタンスを踏襲して、話し合い内容に深まりがある運営を心掛けたい。更には、運営面でもおもてなしができるよう、函館の実行委員会と連携をとりながら準備していく。